

みしか載せられていないが 15-35万 t を示す。この図から合成石膏の生産が1970年頃より急激に増産されたことが解る。

韓国では天然の石膏は多少生産されたことがあるらしいが(金 1982)多分現在は稼行鉱山は無いものと思われる。

石膏鉱床は 京畿道華城郡西新面 忠清南道青陽郡飛鳳面 慶尚北道迎日郡延日面 慶尚南道昌原面など(金 1932)に知られている。

慶尚北道迎日郡延日面自明洞にある大韓石膏鉱山付近の地質は時代未詳の火山岩類を基底とし これを不整合に第三紀の泥岩 沈泥岩 粗粒質凝灰岩 緑色凝灰岩類が覆い これらの岩石類を岩株状あるいは岩脈状に貫いて分布する第四紀の玄武岩から構成されている。

石膏の産出状態は玄武岩が貫入した堆積岩(延日統鶴

林層)*中に層状あるいは樹枝状に胚胎して産し 石膏の平均脈幅1-30mm程度の細脈である。石膏は繊維状葉状 針状で 地表では淡黄色に汚染されているが地下では白色 青白色である。含石膏部の延長は20m 厚さは約8mであるが 石膏の平均含有率は3-5%で稼行価値は無い(Lee and Lee 1963, 1/5万図幅 浦項 1964)。

◎Gallagher, D. (1963) Gypsum in Mineral Resources of Korea, v. VI A, p. 61-62

●Lee, J. H. and Lee, M. S. (1963) Report on the Daihan Gypsum Mine, Geol, Sur, Korea, Bull., n. 6, p. 169-180

○金正沢(1982)石膏鉱床 in 韓国の地質と鉱床 p. 400
他に1/5万地質図幅“浦項”

*地質ニュース403号(1988年3月号)p. 45参照

最近中国で発見された新鉱床 No. 6

地質相談所 岸本文男

XXXII 柳州地区で大型大理石鉱床

柳州地区の地質隊は 広西壮族自治区武宣県三里郷のマンガン鉱床区西方地区から頼村・点村一帯にかけて大理石鉱床を探索し 一大大理石鉱床の存在を確認した。

この三里の大型大理石鉱床は デボン系上部統柳江果層上部層の豆状石灰岩層の中・上部に位置する。鉱床の生成タイプと工業タイプは 炭酸塩相堆積型大理石鉱床に属する。鉱量計算の結果によれば この鉱床はカテゴリーDの鉱量が1,000万m³に近く 同鉱床周辺を含めた地質鉱量は1,000万m³をはるかに越える。本鉱床の大理石は 品質が国家基準に合致し 石質がきめこまかく 緻密かつ均質で 微細細粒組織を備え その細粒が定向性配列を示し 光沢度が80度よりも大きく 模様が奇抜 色が鮮やかではあるが 眺めればシックで とてもよい装飾建築石材になる。 鄒優成

(中国地質報 1986. 9. 29)

XXXIII 松遼盆地で多層成巨大オイルサンド

最近 松遼盆地南部の二輪での油田・天然ガス田の探査中に 巨大な 中国初の多層成の オイルサンドが発見された。これは重要な発見で 梨樹凹地の石油・天

然ガス地質を評価する上で また当該地区の石油と天然ガスの濃集の規則性を知る上できわめて重要な 理論的および実証的な意義もっている。

このオイルサンドの発見は 松遼盆地南部の梨樹凹地内において 地質産部吉林石油調査・探索指揮所4018鑿井隊が掘進した 松南13号井でなされたものである。この松南13号井は 1986年4月20日に掘進を開始し 深度218mに始まる計8層 累計層厚100m余のオイルサンド層とさらに含天然ガス層を既に発見済みであり その8層の中でもっとも厚いものは8mに達している。試錐コアとスライムから判断すると これらのオイルサンドは 浅部の泉頭累層と深部の登婁庫累層中にそれぞれ別れて分布している。そのうち オイルサンドが深部の登婁庫累層中で発見されたことは まさに初めてのことである。とくに注目すべきことは 松南13号井によって把握された地層が 砂岩部分に原油を含有しているだけでなく 泥岩部分にもその割れ目中に原油を含んでいること 同井での石油・天然ガス含有量が多く 貯留層が厚いこと 連続コアの延長が松遼盆地では最大級であること である。 郝駿 周振南

(中国地質報 1986. 6. 27)

最近中国で発見された新鉱床 No. 7

地質相談所 岸本文男

XXX V 四川省で一大型錫鉱床を確認

四川省地質産産局攀西地質大隊は 最近 会理県 岔河の韓家坪で一つの大型錫鉱床を探索・把握した。

その初生鉱石の予想鉱量は 金属量で5万t以上と思われる。同時に その周縁で類似する鉱床胚胎層準も発見され さらに錫鉱床の評価は新たな展望を与えている。

攀 宣 (中国地質報 1986. 5. 2)

XXX VI 江西省で巨大な珪灰石鉱床

江西省地質産産局贛西地質調査大隊は 新余県・上高県域の蒙山山脈区域で 現在のところ中国では数少ない優れた超大型珪灰石鉱床田を発見した。

この3年越しの試錐探査は掘進総延長が31,000mに達し その試錐探査によって中型 大型 超大型の3鉱床が把握され 総埋蔵量は2,000万tを越え 鉱石の品質は一級と二級に該当する。

この鉱床田は交通が至便で 露天掘りに適している。新余県は これらの鉱床の開発にとりかかりつつある。

其鴻 西明 (中国地質報 1987. 1. 12)

XXX VII 広東省で一中型錫鉱床を把握

広東省地質産産局756地質隊は 紫金県の鉄巾章で中型錫鉱床を探索・把握した。この錫鉱床の鉱量は29,200t(金属量)である。この鉱床は北東性華陽断裂の中央部に位置し 鉱体は裂罅充填型の脈状を呈し 断裂破碎構造と岩石の節理割れ目構造に規制されている。

鉱床は錫石-硫化物型に属し 大型石英脈型 破碎帶型細脈帯型の3種の鉱体からなっている。

陳志美 (中国地質報 1987. 1. 5)

XXX VIII 中国最大のケーブルビー鉱床の把握

江蘇省地質産産局は数年前 江蘇省北部の某地で一つの大型ケーブルビー鉱床を試錐で探索・把握した。

この鉱床は ケーブルビーの鉱量が中国一である。宝石としての鑑定と加工試験の結果によると このケーブルビーは比較的優れた経済価値を備えている。この宝石鉱床は 規模が大きく 品質が良く 含有率が高く 賦存場所が浅く 分布が集中し 開発・採掘が簡単で

鉱石が加工しやすく 工芸品としての性質も優れ 鉱床への交通も至便である。3年をかけた地質調査と鉱床の精査を経て 地質調査者たちは一つの原地残留型粒状ケーブルビー漂砂鉱床と二つの原地残留型塊状ケーブルビー漂砂鉱床の形状を明らかにし 9体の風化殻型粒状ケーブルビー漂砂鉱床と5体の塊状ケーブルビー初生鉱床を試錐探査によって発見した。

北京と江蘇省数家の宝石加工工場での加工試験によれば この鉱床産ケーブルビーを研磨して作った面カット式宝石は 明るい反射と屈折の性質を十分に発揮し 目を奪うような色合いの光彩を発する。

顧竜友 (中国地質報 1986. 10. 20)

XXX IX 湖南省で層準規制灰重石鉱床を発見

湖南省有色地質勘探245隊は3年の地質調査と鉱床探査によって 江南地軸の北西に突出した雪峰孤状構造帯の中部で一つの層準規制型の中型灰重石鉱床を発見した。

この灰重石鉱床は燕山期前期大神花崗岩の外接触帯の熱変成帯内に賦存し 震旦系下部統南沱砂岩質累層中の鉱化作用に適した部位 すなわち層準規制灰重石鉱床の新層準に胚胎されている。鉱体は層状 層類似状を呈し その走向・傾斜は地層のそれと基本的には一致し 鉱化作用は層準に規制され 花崗岩体の境界で消え 隣接する鉱体の鉱化部位とは柱状断面でよく対比でき 比較的典型的な層準規制鉱床の地質学的な特徴を備えている。

この鉱床の鉱体は総厚度は7.8m 品位は WO_3 0.63%で 2回の選鉱試験を経てその選鉱精鉱の質が国家標準規格の一般灰重石精鉱に合格し かつ探査投資額が少なく かつ探査投資額は灰重石精鉱価格のわずか0.43%を占めるにすぎず 探査によって把握した WO_3 1t当りの試験掘進延長は0.14mにすぎない。鉱床の区域は交通が至便で 湘西(湖南省南部)金鉱山の西安坑を振替えて開発することが可能である。

袁訓誠 (中国地質報 1987. 7. 3)